

(論 說) ○日本産魚類の新種 (田中)

口は斜にして、下顎稍や突出し、體は側扁にして稍や細長く、多少「リノゴビウス」屬に似たる形態を有す、齒は簡單にして尖り、一列に並び、鱗は全くなく、第一背鰭は七棘、第二背鰭は十軟條、臀鰭は六軟條より成る、尾鰭は圓形なり、ホルマリシに浸せる色は淡黄色にして、斑紋なし。

體長(尾鰭を除ける)は一・五糎強。

長崎魚市場に於て金子一狼氏採集。

本屬の特徴は鱗のなきこと、口裂の斜なること、一列の尖れる齒を有すること、背鰭及臀鰭の軟條數の少なきこと等なり。

(10) *Henicichthys foraminosus*, n. g., n. sp.

(*Henicichthyidae*, n. fam.)

クダリホオズギス(新種) (*Trachinoid fish*.)

體長(尾鰭を除ける)は頭長の二倍五分の四、體高の五倍八分の三なり、眼は側在し、口は大きく、稍や斜にして、上顎骨は眼の後縁よりも後方に達す、顎に存する齒は鋭く、一列に並び、鋤骨及口蓋骨にあり、背鰭は二基にして稍相接し、第一背鰭は六棘、第二背鰭は十一軟條、臀鰭は十一軟條、胸鰭は十三軟條、腹鰭は一棘五軟條より成る。腹鰭は互に密接し、胸鰭の下方にあり、尾鰭は後縁殆ど截形を呈す、鱗なく、體及頭部には縦横に孔あり、ホルマリシに浸せる色彩は蒼白色にして斑紋なし。

本種は *Trachinoid fish* ならんと鑑定したり、而して

新科に入るべきものならんと考へたり。

體長(尾鰭を除ける)は凡そ五・五糎なり。

長崎市場に於て金子一狼氏採集。

(6) *Asterorhombus stellifer*, n. g. n. sp.

セイテンビラメ(新種)

(Platuroctidae.)

眼は左側にあり、體長(尾鰭を除ける)は三倍三分の二、體高の二倍九分の一なり、頭長は眼徑の四倍三分の二、兩眼間隔の十五倍、上眼より測れる吻長の三倍三分の一なり、背鰭は八十一軟條、臀鰭は六十二軟條より成り、尾鰭は圓形を呈す、第一鰓弓に存する鰓耙は上枝に殆ど無く、下枝に九個あり、其形は短き瘤狀にして棘多し、上顎骨は眼の前縁を超過せるも「*プセウドロンブス*」屬の如く甚しからず、第一背鰭は眼の前縁を遙に前方に超へ、其第一軟條は他軟條に比して著しく長し、鱗は眼側は櫛齒鱗にして、無眼側は圓狀鱗なり、鱗數は五十個なり、黒點體長に沿うて四列に排列し、背鰭、臀鰭及尾鰭には多くの斑點あり、胸鰭は斑點なきも、眼側の腹鰭には斑點あり、齒は鋭く一列に並び、眼側に及べり。

本屬は「*プセウドロンブス*」屬に比して口裂淺く、背鰭の起部前方に進み、體高低し。

本種の體長は尾鰭を除き一一種。

大正四年八月長崎市場に於て金子一狼氏採集。

(7) *Scitorhombus pallidus*, n. g. n. sp.

ウスガレイ(新種)

(Platuroctidae.)

眼は左側にあり、體長(尾鰭を除ける)は頭長の四倍五分の一、體高の二倍二分の一なり、頭長は眼徑の三倍六分の一、兩眼間隔の十九倍、吻長(上眼より測れる)の三

倍六分の一なり、背鰭は九十三軟條、臀鰭は五十四軟條、尾鰭は圓形を呈す、齒は小さく且つ鋭く一列に並び、鱗は一縦列に於て四十二個、眼側の鱗は稍や弱き櫛齒鱗にして、無眼側は圓狀鱗なり、側線は前方に於て半圓狀の屈曲部あり、背鰭は眼よりも前方に始まる、上顎骨は下眼の前縁を僅に過ぎたり、ホルマリンに浸せる色彩を見るに蒼白色にして、背鰭及臀鰭には斑點あり。

尾鰭を除ける體長八種。

大正四年九月長崎市場に於て金子一狼氏採集。

本屬は稍や「*プセウドロンブス*」に似たるも、口裂稍や淺く、背鰭及臀鰭の軟條數多し。

(8) *Wakae parvita*, n. sp.

カスリハセ(金子氏新種)

(Gobiidae.)

本屬の著しき點は口裂著しく大きく、前鰓蓋骨の隅角に達せんとすることとなり、第一背鰭は七棘、第二背鰭は十一軟條、臀鰭は九軟條、胸鰭は十六軟條なり、鱗は一縦列に於て三十四個、一横列に於て十五個なり、ホルマリンに浸せる色は淡褐色にして、八個の褐色横帯(前下方に向へる)を有す、二背鰭及腹鰭は黒色にて、胸鰭及尾鰭は體色と殆ど同様なり。

體長(尾鰭を除く)は三五種。

長崎市場に於て金子一狼氏採集。

(9) *Tubricogobius exiguus*, n. g. n. sp.

ミヤンミンハセ(金子氏新種)

(Gobiidae.)

(論 說) ○日本産魚類の十新種 (田中)

(京都府立第一高等女學校今大路複三氏採集)等に産す。
今大路氏によればホルマリンに浸せば體色黒色を増すものゝ如しと。

(3) *Epinephetus suttonis*, n. sp.

ツチホセリ(後居)
(Serranidae.)

體長(尾緒を除ける)は頭長の二倍半、體高の二倍五分の二なり、頭長は眼徑の五倍五分の一、兩眼間隔の四倍三分の二、吻長の四倍、上顎骨の二倍、尾柄の高さの三倍四分の一なり、前鰓蓋骨の後縁は鋸齒をなし隅角は更に其程度強し、上顎骨は眼の後縁を通じて引ける垂直線よりも稍や後方に達す、尾緒は僅に凹形を呈す、下顎側方の齒は二列なり、鱗は九十個の斜走列及百二十五の垂直列を有し、一垂直列に於ては側線よりも上方に二十三個、側線よりも下方に三十個許りあり、背緒は十一棘十六軟條、臀緒は三棘八軟條、胸緒は十九軟條、尾緒は分枝軟條のみを數ふれば十四個なり、ホルマリンに浸せる色彩は黄褐色、小なる黒點を散在し、背緒軟條部の背縁、臀緒の腹縁、尾緒の後縁及腹緒は黒色なり。

體長(尾緒を除き)一三糎強。

大正四年一月十二日大分縣佐伯中學校出納國滿氏豊後佐伯市場に於て採集。

(4) *Franzia affinis*, n. sp.

フジリハナダイ(新種)
(Serranidae.)

コンゴオハナダイ(*Franzia nobilis*)と頗る似て殆ど區別するを得ず、殊に背緒第三軟條の延長せること、背緒軟條部の後部、臀緒の後部、腹緒の後部の黒きことも能く似たるも、其黒色部は *Franzia nobilis* よりも少く、且つ其色の程度薄く、尾緒の中部軟條の黒色の程度も淡し、胸緒には全く黒色部なし、體高はコンゴオハナダイよりも低く、體高の三倍は體長(尾緒を除ける)に等し、背緒は十棘十七軟條、臀緒は三棘七軟條、鱗は四十一個なり。

體長(尾緒を除ける)は八糎強。
長崎市場に於て金子一狼氏採集。

(5) *Kanekonia florida*, n. sp.

ハナチゴオコセ(金子氏新種)
(Scorpenidae.)

體長(尾緒を除ける)は頭長又は體高の二倍三分の二なり、頭長は眼徑の六倍、兩眼間隔の四倍、吻長の三倍、上顎骨の二倍五分の二なり、背緒は十二棘九軟條、臀緒は一棘九軟條、胸緒は十五軟條、腹緒は一棘二軟條より成る、口は殆ど垂直にして、背緒は眼よりも後方に初まる、體の上部は褐色にして、體側及體の下部は蒼白色なり、鱗なし。

本種は一見ハオコセ(*Paracentropogon rubipinnis*)の如きも之と相違せる所多し。

本屬の特徴は背緒、臀緒の棘及軟條の數、殊に腹緒の棘及軟條の數にあり。

體長(尾緒を除ける)は三糎強なり。

長崎市場に於て金子一狼氏採集。

論說

●日本産魚類の十新種

理學士 田 中 茂 穂

左に掲ぐる十種は、學術上新種なるべく、尙、新屬五、新科一を設くること適當なるべし。

(1) *Ateleopus purpuraceus*, n. sp.

ムラサキシヤチフリ(新稱) (Ateleopidae.)

體長(尾緒を除ける)は頭長の六倍三分の一、體高の八倍四分の三なり、頭長は眼徑の七倍半、兩眼間隔の二倍五分の四、吻長の二倍三分の二なり、背緒は九軟條、臀緒及尾緒を合して百二十軟條、胸緒は十三軟條、腹緒は四軟條(一見一軟條の如し、切り開かずんば眞の數を見るを得ず)より成る、胸緒は後方に壓すも肛門に達せず、腹緒は胸緒全長の四分の三の處に達す、背緒は後方に壓せば殆ど肛門を通じて引ける垂線に達せんとす、ホルマリソに浸せる色は褐紫色、兩顎の前方のみに小齒あり。

體長(尾緒を除き)七一五種。

常陸水戸附近湊町の沖に於て採集せられたるものにして、茨城縣立商業學校鶴町猷氏の送附せられたるもの。

(2) *Pygosteus kaibarae*, n. sp.

サブジヤニ(宮都市外) (Gasterosteidae.)

カツオ(丹波柏原町)

體長(尾緒を除ける)は頭長の三倍半、體高の五倍九分の一なり、頭長は眼徑の三倍四分の一、兩眼間隔の六倍二分の一、吻長の三倍四分の一なり、背緒は八棘乃至九棘を具ふ、體の前方に十個の楕狀板あり、ホルマリソに浸せる色彩を見るに黒灰色又は黒色にして、凡ての緒に存する棘を體に結び付くる皮膜は濃黒色なり。

體長(尾緒を除ける)は四・五種許。

丹波柏原附近成松町の内の柿柴町小字清水(兵庫縣立柏原中學校中川純氏採集)、丹波國氷上郡和田村(兵庫縣立御影師範學校山鳥吉五郎氏採集)、京都附近吉祥院村